

海底油田に期待

島国・小国の日本。全てにわたって自給自足の生活はもはや不可能となっている。世界各国より食料をはじめ、ありとあらゆる物を輸入に頼っている。その最たるものが石油、石炭、天然ガス等の枯渇性エネルギーである。これらのエネルギーなくして現代日本の経済発展と国民生活は成り立たない。

新潟市から日本海沿いに車で北上した。この日の天候は生憎の雨時々曇りであった。日本海は冬特有の荒波は収まり比較的穏やかであった。時折沖の方に眼をやると大きな船が見えていた。しかしその船は一向に動いていないことに気が付いた。形からして海上に浮かぶ建物のようにも見える。それは初めて見る洋上に浮かぶ巨大油ガス田の基地であった。



胎内市沖合約 4 k m に位置する日本国内唯一の海洋油ガス田「岩船沖油ガス田」は、1990（平成 2）年に洋上プラットフォーム（水深 36m）が建設され生産を開始している。ここでの平均日産量は原油 450 キロリットル、天然ガス 44 万立方メートル。

世界的に見てこれら海底油田から生産される石油は全体の 25% に至り、その依存度は益々高くなっている傾向にある。しか日本で駆動している鉞床は小規模な岩船沖油ガス田、阿賀沖、磐城沖のみで、日本の石油自給率の 0.2% に過ぎない哀れな現状である。

これからの日本が生きていく道は、国際的相互理解に立って世界平和と安定に尽力する以外にない。友好の絆が壊れた時点で日本は崩壊する。そうならない為に…。 撮影 2013 年春

